

## AEGIS-Women イベントご報告

### (MasterClass for AEGIS-Women with MasterClass for AEGIS-Kids)

2018年1月26-27日(木)、メドトロニック イノベーションセンター(神奈川県川崎市)にて、MasterClass for AEGIS-Women を開催しました。

参加者は30名、AEGIS-Women の運営委員5名が参加しました。

ご指導いただいた講師の先生方

ラボ担当

猪股 雅史先生(大分大学医学部附属病院 消化器・小児外科 教授)

大塚 幸喜先生(岩手医科大学附属病院 外科 特任准教授)

小嶋 一幸先生(東京医科歯科大学医学部附属病院 低侵襲医歯学研究センター 教授)

福永 哲先生(順天堂大学医学部附属順天堂医院 消化器・低侵襲外科 教授)

山口 茂樹先生(埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科(下部消化管外科) 教授)

グループワーク担当

蓮沼 直子先生(秋田大学医学部附属病院 寄附講座 准教授)

講義もグループワークもたいへん充実して盛り上がりました。

参加された先生方は事前に希望した胃または大腸のアニマル・ラボに参加しました。



講義の様子：

こんなに多くの女性消化器外科医が一堂に会する機会は今までなかったのではないのでしょうか。



また、このラボでは託児サービスを併設するという斬新な試みにチャレンジしましたが、子どもたちも楽しく盛り上がっていました。

また、親たちがアニマル・ラボにいそしんでいる間、6歳以上を対象に、腹腔鏡手術を体験するMasterClass for AEGIS-Kids を開催しました。

高槻赤十字病院 鈴木 悠介先生  
Master Class for AEGIS Women を通じて

高槻赤十字病院外科に所属している卒後4年目の鈴木悠介と申します。この度私は上司である河野先生から第一回 Master Class for AEGIS Women の存在を聞き、高名な講師の先生のもと貴重なアニマルラボに参加できると知って、すぐに申し込みました。

初日には猪股先生、小嶋先生による講義で腹腔鏡の基本操作や概念から実際の大腸、胃の手術での細かい手技まで教えていただくことができました。普段から学会等でセミナーを聞きに行っても、私のような駆け出しの外科医には各論の議論については難しすぎる内容であったりすることも多く、今回のような基礎の基礎である腹腔鏡の基本操作からの講義を聞くことができたのは本当に勉強になりました。また、各論の手術手技についても point をしばって教えていただき、翌日にアニマルラボを控えて良いイメージを持つことができ、非常にありがたかったです。

その後のグループディスカッションを通じて、自分の医師像を見直す良いきっかけを与えていただいたのと同時に、同じ班の先生方とお互いに話す機会を与えていただけたことで緊張をほぐすことができました。



懇親会では名刺交換のルールを初めて聞いて実践しました。同じ班の先生方とは名刺を交換することができたのですが、講師の先生方と名刺を交換することは遠慮してしまって結局交換できなかったことが今回の反省点でもあります。次回からこのような機会があれば、もっと積極的に講師の先生方にも話しかけていこうと思うきっかけとなりました。

2日目は実際に扱う豚での手術手技の講義を聞いてからの手術となり、前日の講義と相まって手術へのイメージをより具体的にしてラボに臨むことができました。私はラボでは胃を希望し、同じ班の先生と3人で手術に臨むこととなりました。執刀の順番は各々決めるのですが、私はトップバッターを任されることとなり、緊張しながら手術を開始しました。手術が始まり6番郭清を行おうと頑張るのですが、うまくいかず難渋していると、講師の小嶋先生がさっとやってきて、その都度優しく教えてくれました。特に小嶋先生はどこをどう切るかということよりも助手がどこを持つか、左手でどこを引くかという「場の展開」に関して多く助言をいただきました。常日頃からいろんなセミナー等で耳にする、「場の展開」「左手の使い方」ですが、実際の手術にて具体的にどこをどう持ってどう引けばいいかということその場で指導いただいて、初めてその言葉の意味を少し理解できた気がしました。四苦八苦しながらも先生からの助言を糧になんとか6番の郭清が終わり、他の先生に交代しました。最終的に私たちの班は再建まではたどり着けませんでした。上記のことを学べたことは本を読んだり、動画を見たりするだけでは得られない非常に有益なものだったと思います。

このような素敵な講義やラボを通じて、普段の臨床だけではなかなか身につかない知識や技術に触れることができ大変良い経験をさせていただいたと感じております。今後の臨床に少しでも活かしていこうと頑張っていく所存です。

秋田赤十字病院 消化器外科 里吉 梨香  
セミナーに参加して

今回は第1回 Master Class for AEGIS Womenに参加させていただきました。私は大学院進学、妊娠出産の時期と、勤務先の病院での腹腔鏡手術が増える時期が重なったこともあり、開腹手術に比較して腹腔鏡手術を苦手とする状態でした。臨床に復帰した後も、小さい子どもを抱えながらの外科修練は、目の前のことをこなしていくのに精一杯で、新しい技術を取得することに難しさを感じていました。今回の企画は主に女性医師に向けられたものとうかがったので、気軽に参加を決めることが出来ました。日頃憧れている講師陣の方々とお話が出来、アニマル・ラボでは直接ご指導いただき、本当に夢のような時間でした。左手の展開一つで見える術野が全く違うこと、術者と助手のコーディネーションの実際など、リアルタイムにフィードバックをいただけて大変勉強になりました。

今後実臨床の中でも、教わったことを大事にして内視鏡外科の技術を磨いていきたいと思いました。また、グループワークの時間もあり、自分のキャリアをどのように構築していくか、自分が大事にしたいことは何か、考えるきっかけもいただきました。そして参加者として集まった、全国で頑張っている女性外科医の方々とは知り合いになれば、お互いの現状について本音の情報交換ができました。今後も一緒に頑張っていきたいと思える仲間に出会えたこと、このことも今後の外科医人生で大きな財産になることと思います。このような素敵なセミナーに参加させていただき、ありがとうございました。



## MasterClass for AEGIS-Kids を担当して AEGIS-Women 運営委員 梅澤昭子

お子様連れで参加できるアニマル・ラボの一環として、6歳以上のお子さんを対象に講義とゲーム形式の実習を担当しました。

まずミニ講義として、手術に使用する器械や腹腔鏡手術について、スライドで説明しました。手術器械について、「コッヘル鉗子」「クーパー剪刀」など大人顔負けに知っているお子さんが多く、中には「家にある！」との発言もあり、外科医の家庭を垣間見るようでした（笑）。

続いて行った実習は、腹腔鏡手術のトレーニングボックスで、手術用鉗子を用いてビーズを把持して移動させるゲーム形式でしたが、いずれのお子さんでも大興奮で、こちらもうれしく思う場面でした。感心したのは、どのお子さんも難なく鉗子でビーズを把持できたことで、鉗子と対象物の距離をモニタ上で把握することやトロッカーを支点にする鉗子の動きについて、直感的に把握できる柔軟な能力に感嘆しました。



お子さんを対象にした講義・実習は私たちスタッフには初めてのことで、メドトロニックのスタッフの皆様には大変なご協力をいただき感謝申し上げます。参加いただいたお子さんには、医師という職業、そして外科医に興味をもって育って欲しいと思っています。そうでなくても、親子ともども、今回の MasterClass for AEGIS-Women に参加してよかったと思っていただけるならば、大変うれしいことだと感じました。

## キッズラボを運営して AEGIS-Women 副会長 野村 幸世

キッズラボを担当させていただきました世話人の野村です。小学4年生と1年生の娘たちも参加させていただきました。



ビーズを腹腔鏡練習カメラ画像にて運ぶゲームでしたが、総勢9人の参加になりました。どの子も真剣で、一生懸命やっていました。参加者の年齢は6歳から10歳でしたが、7、8歳くらいで急激に手の操作性がアップするように思いました。また、大人よりも鉗子の先の迷いなく、ビーズをつかむことができ、おそらく、このあたりの年齢からトレーニングを始めれば、

より上手な内視鏡外科医が育成できるのではないかと思います。

3チームに分かれてのリレーや個人賞もありましたが、我が家の子どもたちはそれぞれに自分の成果に不満があるらしく、帰宅後も喧嘩が絶えず、個人的には嫌になりました。でも、「もう連れてかない!」と怒ると「行きたイーーー」とベソをかいていましたので、楽しかったのだと思います。また、よろしくお願いします。



### らばびずゲームを担当して

AEGIS-Women 運営委員 大越 香江

小学3年生と2年生の娘たちを連れて参加しました。自動吻合器のデモンストレーションではどの子どもたちも興味津々で釘付けになっていました。

今回、らばびずゲーム（鉗子で様々な形のビーズを移動させるゲーム）をメドトロニックの担当者の方と相談して企画・運営させていただきました。大腸・小腸・胃の3チームに分かれてビーズを動かした数・難易度によって点数をつけて競いました。うまくつかめなくてイライラする子、あいているトレーニング台にこっそりはりついて練習する子、様々な個性が出て楽しく拝見いたしました。

事前に私もビーズを試しにいくつかつかんでみましたが、実は結構難しく、これは鉗子で把持できないのではないかとというような形のビーズもあえて加えておきました。子どもたちは私の方法とは全く違う方法・戦略でビーズを把持し、満点を叩き出す子どももあり、大人の予想を見事に裏切ってくれました。大腸チームでは、ビーズの種類ごとに、どことどこを持ってばうまく把持できるかというメモを書いて見せあっていました。その効果か金メダルを獲得しました。



子どもたちのほうが私より腹腔鏡手術がすぐにうまくなるのではないかと戦々恐々としています（笑）。次はもっと難しいゲームを考えなければなりません。